なかしべつ 議会だより

No.118
平成30年７月

根室管内消防団員技能競技訓練大会（６月10日　中標津消防署にて）

「知床ナンバー」決定　図柄の公募始まる

応募先はこちら→

一般会計補正予算　約25億円追加し総額約164億円

主な内容　６月定例会　２・一般質問　４～６　・病院の近未来を検討する特別委員会　７

6月定例会 全議案可決

平成30年６月定例会を６月18日から22日まで開催、以下の議案について審議し、議決しました。

■平成30年度各会計補正予算

◇一般会計補正予算（第２号）
25億6,936万円を追加し、総額163億948万2千円となりました。

主な使いみち

・畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業補助金
（畜産クラスター関連事業：チーズ枠） 25億4,686万5千円
・家畜自衛防疫組合負担金（マイコプラズマ乳房炎発生に伴う自主淘汰奨励金） 674万7千円
・中標津中学校施設改修工事費（３月９日の降雨による屋上雨漏り対策） 250万8千円
・囲碁天元戦開催地負担金（井山裕太棋士を迎えて10月29日開催予定） 80万円

◇介護保険事業特別会計補正予算（第１号）
168万9千円を追加し、総額14億9,706万4千円となりました。（制度改正に伴うシステム改修負担金）

◇病院事業会計補正予算（第１号）
790万円を追加し、総額48億1,281万5千円となりました。（医療機械器具等購入費）

■条例の一部改正

・特別職の職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正
・中標津町町税条例の一部改正
・中標津町都市計画税条例の一部改正
・中標津町放課後児童健全育成条例の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正

■その他

・工事請負変更契約の締結（泉団地新築建築主体工事１工区、２工区）
・工事請負契約の締結（丸山公園テニスコート整備工事）
・財産の取得（ロータリ除雪車、除雪トラック購入）
・辺地に係る公共的施設の総合整備計画の策定、変更について

■報告

・平成29年度中標津町一般会計繰越明許費繰越計算書
・平成29年度中標津町一般会計事故繰越し繰越計算書
・平成29年度中標津町営牧場特別会計繰越明許費繰越計算書

第２回臨時会

４月25日に開催された臨時会において、補正予算及び条例の改正等について審議し、議決しました。

■平成30年度一般会計補正予算（第1号）
312万2千円を追加し、総額137億4,012万2千円になりました。
（計根別児童館調査設計委託料）

■条例の一部改正
・中標津町町税条例の一部改正
・中標津町都市計画税条例の一部改正
・中標津町国民健康保険税条例の一部改正

一般行政報告

一、北方領土隣接地域振興対策根室管内市町連絡協議会（北隣協）の要請活動

３月25日根室市で開催した福井照内閣府特命担当大臣と行政関係者との懇談会において、北方領土問題の早期解決に向けた平和条約締結交渉を推進させることと「北方領土問題の解決推進のための特別措置に関する法律（北特法）」の趣旨に基づき、北方領土隣接地域の振興及び住民生活の安定を図るため、早急な「隣接地域の振興対策の推進」について充実強化をはかるよう議長と要請を行いました。

４月５日東京で開催されました自民党北方調査会プロジェクトチーム会議において、根室管内１市４町の地域振興を目的とした「北方領土隣接地域振興等基金（通称、北方基金100億円」の運用益が金利の低下により大幅に減少し、地域振興策への活用が限界に近づいている状況から、基金原資を取り崩して活用できる北特法の改正を要望しました。

また、同調査会プロジェクトチームの宮腰座長及び長谷川事務局長が５月７日に来根された際、北方基金の活用を含めた新たな交付金制度の創設と領土返還までの恒久的な支援について議長と共に要望しました。

二、中標津空港利用促進期成会の要請活動

５月８日から９日にかけて、福島及び茨城県庁などを訪問し、両知事をはじめ関係者に対し北海道の魅力とともに、６月から福島空港及び茨城空港と中標津空港を結ぶＦＤＡ（フジドリームエアラインズ）チャーター便の就航についてのＰＲを行いました。

三、医師確保対策に係る要請活動

３月27日から28日にかけて、本年４月より外科医師の派遣先が北海道大学第二外科に変更になったことから、第一外科に対する長年の院長・医師派遣に対するお礼と、第二外科に対し安定的な医師派遣について要請を行いました。

四、道立林業大学校誘致に係る要請活動

平成32年度の開校に向け、北海道が準備を進めている道立林業大学校を当町に誘致するため、昨年10月に「道立林業大学校・根室管内誘致期成会」を設立し、その後、釧路管内全ての市町村も加盟し誘致活動を行っております。

地域の理解促進と誘致に向けた機運の醸成を図るべく、５月30日に、長野県林業大学校から講師を迎え誘致講演会を実施したところ、釧路・根室管内から160名の参加があり盛況に終えることができました。

翌５月31日北海道庁において中司道議、釧路市の田中道議も同席し、根室・釧路管内12の市町村の首長等とともに北海道水産林務部長に、期成会として具体的な誘致策をとりまとめた北海道知事宛の提案書を提出しました。

五、寄贈金品について

３月定例会後、物品等で７件、ふるさと納税で257件397万５千円の寄附が寄せられました。

六、地震対応について

４月14日４時00分に発生した地震は根室半島南東沖、深さ53㎞を震源とし当町で最大震度５弱を観測しました。

気象庁の発表に伴い、災害対策本部の設置をするとともに、第三非常配備体制下で職員が順次参集し、道路や各施設の被害情報の収集に努めたところです。

今回の地震による被害状況は農林関係で椎茸生産施設において菌床の落下破損の報告がありましたが、商工業関係の被害報告はありませんでした。

七、作況状況及び公共牧場、各牧野の入牧状況について

６月１日現在、根室農業改良普及センター発表の農作物生育状況調査によると、「牧草」「てん菜」は、５月後半の平均気温及び日照時間が平年を上回ったことから平年より３日程成長が早まり「馬鈴薯」の植付開始は平年より３日早く、植付終了も４日早く終えており「サイレージ用トウモロコシ」「大根」の播種、「ブロッコリー」の定植についても平年通り作業は順調に進んでいるとのことです。

公共牧場及び各牧野の入牧状況のうち「町営開陽台牧場」は５月25日・28日・29日の３日間を中心に890頭が入牧し、各牧野についても町内６牧野で約１千800頭程度の入牧頭数になるとの報告を受けております。

また、平成29年度の生乳生産量は18万４千700ｔで、平成28年度の18万５千600ｔに比較し、900ｔ、率にして0.5%の減となりました。

今年度は畜産クラスター事業等により前年を超える生産量が確保されることを期待しております。

八、中標津空港の利用促進について

平成29年度の中標津空港利用者数は、定期便の年間利用者数が19万９千人となり前年度を上回る結果となりました。

本年度も20万人の目標に向けて一層の利用促進・旅客需要の喚起に取り組みます。

九、知床・地方版図柄入りナンバープレートについて

５月22日国土交通省より平成30年から交付が開始される地方版図柄入りナンバープレート追加の報道発表が行われ、根室・オホーツク管内７町が取り組んでいる「知床ナンバー」の追加が決定しました。

今後、図柄の公募など含め、11月中に発表できるよう協議を重ねていきます。

「知床ナンバー」の交付開始は、平成32年度中を予定しており、引き続き協議会の７町が連携し取り組みを進めます。

十、ＮＨＫ ＢＳプレミアムドラマの撮影について

昭和55年に当町を舞台として公開された山田洋次監督の映画「遥かなる山の呼び声」が、新たにＮＨＫＢＳのドラマとして５月から当町を中心に約１ヶ月間の撮影が行われ、ＪＡ中標津や商工会など全町を挙げて協力をいただき、延べ300人を超える町民エキストラが撮影に参加しました。

十一、平成30年度建設工事の発注状況について

平成30年度の発注計画は５月31日現在、件数177件、金額は25億７百万円で、発注状況は件数で98件（55%）、金額は13億５千万円（54%）となっております。

教育行政報告

一、平成30年度町立学校学級編制について

小学校及び義務教育学校前期課程の生徒数は、前年度対比42名減の１千343名となり、学級数では、普通学級が１学級減の48学級、特別支援学級が３学級増の28学級となりました。

中学校及び義務教育学校後期課程の生徒数は、前年度対比15名減の751名となり、学級数では、普通学級が１学級増の24学級、特別支援学級が５学級減の11学級です。

中標津農業高校は昨年度より２名少ない２学科29名が入学し、全校生徒は前年度１名増の６学級71名となりました。

計根別幼稚園は、３歳児から５歳児まで３学級、園児数は、前年度対比２名減の39名で、本年度教職員４名の体制で計根別地区の幼稚園教育の振興に努めます。

二、平成30年３月卒業の中学生・高校生の進路状況について

町立中学校の今春の卒業生は241名で、238名が進学しました。このうち24名が中標津農業高校に、149名が中標津高校に進学しております。

中標津農業高校の進路状況は、卒業生22名のうち、大学１名・短大１名・専門学校４名・その他進学２名の８名（進学率36.4%）が進学し、就職希望者14名のうち、中標津町内７名を含む14名全員（就職率100%）の就職が決定しました。

中標津高校は卒業生180名のうち、国公立大学11名を含む126名（進学率70%）が進学し、就職希望者51名のうち、中標津町内への就職34名を含む50名の就職が決定し、就職決定率98%、全卒業生の進路決定率は97.8%となりました。

中標津高等養護学校は、卒業生42名のうち一般就労者が８名、就労移行支援等福祉的就労に33名、その他進学が１名となっております。

今後も高等養護学校に対して、一層の支援を進めてまいります。

町政を問う ここが聞きたい

６月定例会では６人の議員が６問の質問をしました。
理事者からそれぞれ答弁がありましたので要約して掲載いたします。

Q 中標津空港利用促進期成会の課題について

A 今後も関係機関に利用促進を訴えてまいります

髙橋　善貞 議員

質問

積極的な活動を展開している中標津空港利用促進期成会の運営に対し、以前から疑問に思うことについて単刀直入に質問いたします。

それは「なぜ根室市役所と根室振興局の職員は中標津空港を利用しないのか」という疑問です。

現在、根室市はＪＲ花咲線の存続問題もあり、厳しい立場にあることは理解しております。

昨年、根室振興局に「なぜ中標津から航空機で札幌に出張しないのですか」と問い合せたところ「旅費が安価で経済的なＪＲで出張命令している」との理由でした。

根室駅から札幌駅までＪＲを利用した場合、所要時間約６時間40分で、中標津空港を利用の場合、約３時間10分です。

この鉄道と航空機の時間差は約３時間30分であり、午前中に仕事ができる時間を列車の中で過ごすことが本当に経済的なのか疑問が生じます。

中標津空港を管理している「北海道」の振興局職員が中標津空港から出張できる体制に転換するよう申し入れを行うべきだと思いますが、町長はどのように考えますか。

町長答弁

各自治体等の出張は最も経済的で効率的な交通手段を利用されていると理解しています。

これまでも管内の市町及び関係機関に対して中標津空港の利用促進を訴えてきましたが、御指摘の点を踏まえて、なお一層利用して頂けるよう努力してまいります。

Q 生活保護基準引き下げに伴う本町の対応（就学援助）について

A 援助を維持していく考えです

水石　幸衛 議員

質問

国は生活保護基準を今年10月から引き下げることを決めており、生活保護世帯を維持するには、現状のまま準要保護世帯に認定するか、基準の見直しをしない限り、支給対象者は縮小され、多くの生活保護世帯の暮らしを直撃し、さらに生活保護世帯のみならず、就学援助を受けている世帯にも影響があります。

就学援助の対象者を決める所得基準は、生活扶助基準の「1.3倍未満」と定めているため、生活扶助基準引き下げに連動し、就学援助の支給基準を引き下げて、対象者を減らす考えを示す市町村もあるようです。

就学援助は、経済的に苦しい家庭の小中学生の学用品代、給食費、修学旅行費などを援助する制度です。

経済的に苦しい子育て世帯にとって、就学援助を利用できるかどうかは、子どもの教育環境を整えるうえで、極めて重大な問題です。

今後の対応について教育長の考えをお聞かせください。

教育長答弁

生活保護基準が引き下げられる場合、就学援助対象者が減少することになり、保護基準を現行のまま維持すれば、町の財政負担が増えることになります。

道内の札幌市、苫小牧市、釧路市などは現行の対象者への支援維持を決めている状況であり、本町においても就学援助対象者にとって必要な援助を維持していく考えでありますが、今後の根室管内の取り組み状況を踏まえ対応します。

町政を問う
ここが聞きたい

Q 「中標津のにおい」について
A バイオガス発電等による環境向上を目指します

飯島　実 議員

質問

酪農臭気は、限られた時期・場所・天候で発生しており、現在は住宅や車も改善されてはいますが、抜本的な臭気の緩和・解消につながるような対策について説明願います。

一方、市街地の住民側でできる長期的な改善策として、防臭・消臭・芳香効果が期待できる樹木を計画的に植え、地形の高低差を利用して中標津のにおいを「森の香り」にするようなイメージアップが望まれますが、町長としてのお考えを伺います。

最後に、旅行者、定住希望者などに、牧場のにおいについてのご理解を頂くための対策が必要と考えますが、いかがお考えでしょうか。

町長答弁

空の玄関口の町としては、観光振興上の重要課題であり、酪農家の環境に対する意識改革も進んではいるものの、さらにバイオガス発電等により地域環境の向上を目指すべく研究を進めてまいります。

農協をはじめ関係機関と協力しながら、バイオマス産業都市構想の実現に向け、各農家の経営規模や意向等に応じた対策を講じてまいります。

次に、樹木の防臭効果の学術的な根拠は未確認ですが、多面的な機能を活かすべく、においの軽減の観点での樹種選定、植樹場所についても研究いたします。

また、各農協に確認の上、観光地、空港などで、ご理解を深めて頂けるような事前の周知方法を検討いたします。

Q ふるさと納税返礼品に住民の福祉向上の視点を
A 福祉向上につながる返礼品の調査研究を進めます

江口　智子 議員

質問

本年の寄付額1億円の目標を掲げたふるさと納税は、観光協会にとって大きな収入源であり、新たにスタッフを増員して町の観光振興の体制作りをしている今、更なる納税者獲得のための返礼品拡充は必至と考えます。

日本郵便で昨年開始した高齢者の見守りサービスを、ふるさと納税の返礼品としている自治体がいくつかあります。

依頼者からすれば、電話で声を聞くだけよりも、実際に訪問確認をしてもらえる安心と同時に、見守られる高齢者の安全にもつながります。

今後確実にやってくる超高齢化の時代に、返礼品を活かす下地作りをする意義は大きいと思いますが、町長はどのようにお考えでしょうか。

町長答弁

ふるさと納税の返礼品については、現在19事業所から約100品目の供給を受けています。

平成29年度は2千248件、3千882万6千600円の実績となり、前年と比較し寄付金額は微増しました。

日本郵便が昨年10月に開始した「みまもり訪問サービス」は、郵便局社員などが月1回30分程度高齢者の住宅を訪問し、体調や食事の摂取状況などの質問を行い、その結果を依頼者（家族）に連絡するなど、離れて暮らす家族をつなぐサービスであり、中標津町内では現在3件の利用があるとのことです。

高齢者世帯比率の増加に伴い、このようなサービスの需要は高まるものと考えています。

「みまもり訪問サービス」を全国で約50市町村が導入している中、当町においても福祉向上につながる返礼品について調査研究を進めたいと考えております。

町政を問う
ここが聞きたい

Q 子ども食堂・地域食堂について

瀬波　秀人 議員

A 今後の状況に応じて検討します

質問

1人で食事をする「孤食」が増えているそうです。

1人暮らしが増えていること、家族がいてもそれぞれ仕事が忙しくて一緒に食べられないとのことです。

平成29年の食育白書では、誰かと食事を共にする頻度が高い人は「気が散る、根気がない等の自覚症状が少ない」との研究報告が紹介され、食育推進の取り組みの一つとして、子ども食堂・地域食堂が特集で取り上げられています。

子どもが1人でも来られ、無料又は安価で食事が出来る「子ども食堂」や、子どもから高齢者まで幅広い世代を対象とする「地域食堂」などの取り組みが広がっています。

3月定例会では「町民の集いの場を検討する」との答弁を頂いていますが、併せて「町民お茶の間食堂」というものも検討してはいかがでしょうか。

町長答弁

平成28年には全国で300ヶ所程度とされていた子ども食堂ですが、今年の調査によると全国で2千286ヶ所と急増しているようです。

町としてはこの活動が子どもたちの育ちに有益であると考えますが、補助金や行政の介入がないからこそ柔軟に運営出来ているとの指摘もあり、基本的にはボランティアの方が出来る範囲で実施して頂くものと考えております。

本町で実際に活動が開始された場合には、求めに応じてその運営状況や利用状況等により、町として出来る支援の内容や方法について検討してまいります。

Q 中標津町の成長戦略について

松村　康弘 議員

A 住みやすさナンバーワンの町をさらに進めます

質問

急激な人口減少が近未来に予測される中、これに対抗する成長戦略が求められていると考えます。

それはコミュニティーアイデンティティ（地域において共感される独自の価値）を加味し、同時に外部に共感を得ることも踏まえた地域特性として語られなければならないと考えます。

同時に近未来において成長していくであろうマーケットを見据えた組み立てが求められ、当地域にあっては、努力の結果によっては急激な入り込みの期待できる、海外を含む観光客ではなかろうかと考えます。

今般作成された中標津町を紹介するポスターには「視界330°地球が丸く見える壮大な風景の広がりと、夜には大粒の星が降り注ぐ開陽台、そして国後島を身近にのぞむことのできる町」とコピーが付けられています。

中標津らしさを端的に表現しているここから成長戦略をスタートされてはいかがですか。

町長答弁

人口減少と高齢化という未曾有の危機に直面している中、地方自治体が安定して持続可能な形で住民サービスを提供し続けるために一番の要素はやはり人口であると考えます。

それゆえ周辺自治体と連携し、特に中標津町にあっては将来人口の予想を覆すために、他の都市と100㎞離れていることを逆手に取って「住みやすさナンバーワンの町」というキーワードに今まで以上にこだわり、住んでよし、訪れてよしの町となるよう発信してまいりますが、併せてこれから着手する第7期総合発展計画で、中標津らしさを追究いたします。

病院の近未来を検討する特別委員会経過報告

5月30日、丁子院長との懇談会を開催しました。

昨年7月から取り組んできた病床利用率について、1月・2月の患者数は落ち込んだものの3月には回復し、その後順調に推移をしており、診療収入などにも改善がみられつつあります。

4月からは北大第2外科の経験豊富な医師2名の派遣により、消化器系、特に肝臓・胆のう・膵臓については町立中標津病院で手術ができ、手術件数や入院患者数の増加に繋がっています。

各科においては、泌尿器科の診療日数が月3日から7日に増え、産婦人科においても医師の確保が難しく休診する病院が相次ぐ中、常勤医師3名体制と、小児科医師、麻酔科医師とのチームにより、年間200件以上の出産に対応しています。

医師・看護師・スタッフを確保することが経営改善につながるため、医育大学との連携を図り診療体制の充実に取り組んでいますが、さらに、ホームページで本町の魅力や病院情報を詳しく掲載し、積極的にアピールしてはどうかについても検討するとのことです。

また、現状の看護師・スタッフの人数に不足がないかについては、各科最低人数のスタッフで行っており、不足しているところは人材派遣会社に依頼したり、看護師確保では修学資金貸付制度などを実施しております。

そのほか、長期にわたり休床している4階西病棟の今後の活用についてや、2025年以降「団塊の世代」が高齢化を迎えることに対して、町立中標津病院の今後の在り方について意見交換をしました。

人事案件

◆中標津町監査委員の選任に同意しました。

氏名　酒井　猛　氏

任期　平成30年6月28日から
平成34年6月27日

自治功労者表彰

このたび、松村康弘議員が北海道町村議会議長会から自治功労者（議員として25年以上）として表彰されましたので、6月18日、議場において伝達式が行われました。

一部事務組合の議会報告

6月7日開催

根室北部消防事務組合

（構成町：中標津町、別海町、標津町、羅臼町）

○平成30年度一般会計補正予算（第1号）
672万8千円を追加し、予算総額17億1,161万7千円

別海（施設整備工事費）　450万4千円
羅臼（サイレン施設工事費）150万円
（消火栓修理費負担金）72万4千円

○財産の取得（消防ポンプ自動車）

中標津町外２町葬斎組合

（構成町：中標津町、別海町、標津町）

○監査委員の選任

北方四島交流訪問事業に参加して

5月31日～6月4日まで

鈴木 克弘 議員

私が訪問したのは、択捉島中心部にある、紗那村という地域でした。

上陸の初日は、表敬訪問・墓参・住民交流会、2日目は、ホームビジット・水産加工場等視察・夕食交流会と朝から晩まで意外とハードなスケジュールで訪問事業が行われました。

島の人たちは友好的で、大歓迎を受け、有意義なひと時を体験しました。

主要道路の舗装・水洗化・住宅等、環境整備が思った以上に進んでいて、そこに住む人々の表情を見ても裕福さが感じられました。

領土返還の道のりは厳しいものがあると思いますが、今後経済協力や人的交流を深め、もっとお互いを知り合うことが大切であると感じました。

中標津町植樹祭

平成30年５月20日開催

平成30年度の根釧東部森林管理署・中標津町共催の植樹祭が、例年と同じ旧開陽牧場跡地にて、青空のもと実施されました。

森林管理署長、根室振興局長の挨拶のあと、幼児から高齢者まで約200人が、シラカバ1千本を植樹、予定された時間前に終わるほど、皆さん一所懸命でした。

（佐藤 武志 議員）

みんなの声を国政に 意見書

議員から下記意見書案が発議され、定例会において審議の結果可決し、関係機関に提出されました。

中標津町への北海道立林業大学校設置に関する意見書

提出者　熊倉　重樹　議員

中標津町を含む根室・釧路管内には、豊富なカラマツ、トドマツなどの人工林など約56万ヘクタールの森林が広がっており、森林組合を含む林業事業体や、製材工場をはじめとした様々な木材関連事業所が、地域の林業・木材産業を支えています。

また、当管内は、緩傾斜地に広がる北海道遺産の「格子状防風林」をはじめとした防風林、河川や湿原の周辺の河畔林、海岸沿いの魚つき保安林など、地域の基幹産業である酪農や漁業、住民生活を保全する貴重な森林として整備されており、これらの森林資源の特徴を活かした、多様で健全な森林の施業実習が可能な地域です。

さらには、世界自然遺産「知床」や、「阿寒摩周国立公園」、「知床国立公園」、「釧路湿原国立公園」といった3つの国立公園を抱えており、シマフクロウ、オジロワシ、タンチョウ、イトウなどの希少な野生生物が生息・生育する豊かな自然環境と景観の保全等、森林のもつ多面的な役割を学び、実感できる貴重な地域でもあります。

これらのことから、基幹産業である酪農と漁業、森林・林業が共存共栄し、発展してきた根室・釧路管内は北海道の縮図と言っても過言ではなく、この地域で林業を学ぶことにより、全道の各地域において、林業生産活動などを通じた地域づくりに貢献できる人材を育成することができ、地域林業の担い手不足解消につながるものと考えます。

加えて、特に根室管内には大学・専門学校がなく、高等学校卒業後における専門教育機関の設置は地域の悲願でもあります。

つきましては、根室・釧路管内の総意として、（仮称）北海道立林業大学校の中標津町への設置を強く要望いたします。

2019年度国家予算編成における教育予算確保・拡充、就学保障の充実に向けた意見書

提出者　佐藤　武志　議員

1　義務教育費国庫負担制度の堅持と負担率を1／2に復元されるよう要請します。

2　「35人以下学級」の早期実現にむけて、小学校1年生から中学校3年生の学級編制基準を順次改定すること。

また、住む地域に関係なく子どもたちの教育を保障するために、複式学級の解消に必要な教職員定数の改善及び必要な予算の確保を図るよう要請します。

3　子どもたちや学校、地域の特性にあった教育環境を整備し、充実した教育活動を推進するために、教頭・養護教諭・事務職員の全校配置を実現するよう要請します。

4　経済的な理由により、子どもたちが進学・就学を断念するなどの「子どもの貧困」を解消するため、国の責任において、就学援助制度の堅持、教育予算の十分な確保・拡充を行うよう要請します。

5　教職員の超勤実態解消にむけ、現場の声を反映した実効ある対策を実施するよう要請します。

2018年度北海道最低賃金改正等に関する意見書

提出者　瀬波　秀人　議員

道内で働く者の暮らしは依然として厳しく、年収200万円以下の労働者は43万人、また、非正規労働者86万人（雇用労働者の39.4％）のうち35万人を超える方が最低賃金に張り付いている実態にあります。

最低賃金が上がらなければ、その近傍で働く多くの方の生活はより一層厳しいものとなることから、2018年度の北海道最低賃金の改正に当たって、左記の措置を講ずるよう強く要望します。

1　2010年に合意された「雇用戦略対話」、「経済財政運営と改革の基本方針」および「未来投資戦略」、さらには「一ニッポン一億総活躍プラン」を十分尊重し、経済の自律的成長の実現に向けて、最低賃金を引き上げること。

2　中小企業に対する支援の充実と安定した経営を可能とする実効ある対策をはかるため、厚生労働省のキャリアアップ助成金を有効活用できるよう、国に対し要請すること。

北海道基幹農作物種子条例の制定に関する意見書

提出者　千葉　清正　議員

本年4月1日、国や都道府県に対して公的役割を義務付けていた主要農作物種子法（以下種子法）が廃止され、今後の種子価格の高騰、品種の維持・開発の衰退が心配されます。

この種子法廃止法案の可決に当たっては、引き続き都道府県が種子生産等に取り組むための財政措置、特定企業による種子の独占防止などについて万全を期すことを求める付帯決議がなされています。

北海道における現行の種子開発・供給体制を生かし、北海道独自の種子条例を制定するよう左記事項を添えて強く要望します。

1　将来にわたって北海道の優良な種子が安定的に生産及び供給が図られ、生産者が安心して営農し、良品質な道産農作物が消費者に提供できるよう、北海道基幹農作物の種子に関する道条例を早期に制定すること。

2　基幹農作物については、米・麦・大豆のみならず、北海道農業に欠かせない農作物を位置付けるとともに、条例の円滑な推進に必要な財政措置と万全な体制を構築すること。

3　食糧主権の確保と、持続可能な農業を維持する観点から、優れた道産種子の遺伝資源が国外に流出することのないよう知的財産の保護を条例に盛り込むこと。

常任委員会活動レポート

議会には３つの常任委員会があります。定例会から次の定例会が開催される間を「閉会中」といい、各常任委員会はこの間を活用し、所管する事項とその他案件の調査をしています。主な調査事項を報告します。

総務文教常任委員会

総務部

●行財政健全化対策について
民間ノウハウの活用、情報通信技術の活用推進や、持続可能財政基盤確立に向けた歳入確保などに取り組むことを確認しました。

●町有財産の管理について
・中標津町字俣落２０３４番16
面積６千８７．９６㎡
・中標津町共立11番・12番・13番・14番
面積１万１千７４０．８４㎡
隣接地との一体利用のため、合計で155万２千418円で売却予定との説明を受けました。

●防災について
４月14日・24日に発生した地震の町の体制（災害対策本部設置・緊急地震速報）や被害状況（農林業被害１件、人的被害は軽傷１名）の説明と報告を受けました。
また、気象庁の地震計は養老牛国有地内、防災科学技術研究所の地震計は役場敷地内と末広公園駐車場に設置されています。

●北方領土対策について
北海道による「第８期北方領土隣接地域の振興及び住民の生活の安定に関する計画」の説明を受けました。
北方墓参、自由訪問、四島交流の本年７月以降の往来計画のすべてについてと、北方四島における共同経済活動の調査団派遣について合意したとの報告を受けました。

●ふるさと応援制度推進事業について
平成29年度の寄付金申し込み状況は、寄付件数２千248件、寄付金額３千882万６千600円となっており、平成28年度より約200万円増加しています。
今後も寄付者発掘に向けた取り組みとして、首都圏で発行される新聞折込広告への掲載、ＦＤＡチャーター便搭乗者へのＰＲを企画しているとのことです。
返礼品の内容についても、旅行商品（チケット）も取り入れてはなど、多数の意見がありました。

教育委員会

●所管施設調査について
総合体育館の窓に結露が発生し、要因である室内温度・湿度・換気量の管理の仕方を検討するとの説明がありました。
中標津中学校では、学力向上を目指し、退職校長による放課後学習がなされていること、部活動休養日を実施していることの説明を受けました。
学校給食センターは、１日２千400食を調理していますが、築34年となり、食品衛生管理上、クーラー・風除室の設置を要望されました。

●教育委員との意見交換会について
教育課題全般について、熱意溢れる意見交換を行いました。
委員会開催　４月25日
６月５日
（柳　信　議員）

厚生常任委員会

町立病院

●管理運営について
平成29年度の病院事業会計の決算報告があり、入院患者は前年度を上回り、３千312人増の２万９千79人、外来患者は593人減の14万４千627人、年間で1.5％増となりました。
診療収入については、前年度より５千512万９千円増の23億６千803万３千円となり一般会計よりの繰り入れは15億９千84万３千円でした。
昨年５月に耳鼻咽喉科医師を１名採用、10月には小児科医師を常勤で１名採用しています。
平成30年度の診療体制は、前年度と同じ14科で、その内11科が常勤医師対応、眼科・泌尿器科・循環器科が出張医師対応、医師数は常勤15名、嘱託２名、非常勤嘱託２名の計19名です。

産業建設常任委員会

町民生活部

●介護保険事業について

法令に基づいた高齢者の福祉全般にわたる本町の高齢者福祉計画・第7期介護保険事業計画が定められており、平成28年現在、一人暮らしの高齢者は、日本全体で男性13.3％、女性22.8％です。

本町では「高齢期を豊かに過ごすまちづくり」を目指し、高齢者福祉政策を展開し、介護保険制度の円滑な実施を図るため、地域包括ケアシステムの構築、施策の目標及び介護サービス量の見込等を定めています。

今年度から介護保険料の基準額は月額4千700円となり、全道平均の基準額は5千617円ですが、所得額により10段階に分けられています。

●後期高齢者医療保険料について

75歳以上の方と、65歳から74歳で一定の障がいのある方が対象で、2年ごとの保険料率の改定がありました。

保険料の構成は均等割で5万205円、所得割で10.59％です。

年間の保険料の上限は62万円ですが、世帯主と被保険者の所得に応じ保険料の軽減があります。

委員会開催　5月17日

（佐藤　武志　議員）

建設水道部

●除雪事業について

平成29年度の除雪の予算額は約1億2千400万円で執行額約9千万円でした。

降雪量は305㎝で前年度より69㎝多いとの報告を受けました。

経済部

●中標津町経済分析調査について

調査報告の中で、集まる街から集まり難い街に変化をしており、業種別では建設業の人手不足などは深刻で、30代以降の働き盛りの方々の離職が目立つことから、何らかの対策が必要との報告がありました。

●北海道立林業大学校誘致について

道立林業大学校の中標津町誘致をオール釧根で進める中、5月31日中標津町をアピールした提案書を北海道に提出しました。

場所の決定については、今後、道議会や有識者の意見を聞き、決定するとしています。

受入体制については廃校舎の活用も可能ですが、大がかりな改修工事も考えられることから、新築することも視野に入れて検討しています。

●空港利用促進について

東京便は前年度より1千402人減の8万8千413人、札幌便は前年度より4千726人増の11万826人です。

搭乗者数は平成21年度には一時落ち込んだものの翌年から順調に増加をしています。

●根室中標津空港ビル株式会社との懇談会

空港ビル株式会社との懇談会を開催しました。

酪農臭気の状況や、ひがし北海道5空港で連携した取り組みについて、また、道内7空港が民営化をすることについて話し合いがなされました。

空港ビル株式会社は観光客や空港利用の増加のため、地域のPRを含めて、具体的な検討をされているとのことで大変有意義な懇談会になりました。

その後FDAチャーター便で到着された方々への観光協会による歓迎を視察しました。

●横内林業株式会社視察について

横内林業株式会社では乾燥材の生産量の拡大をめざし、大型高温乾燥機の導入をしました。

温度や時間の管理は自動制御化されており、木材によっては含水率の違いがあるため、温風ファンを正転・反転することで、室内の乾燥状態を均一にして品質の良い乾燥材が生産されています。

●ushiyado（うしやど）視察について

6月にオープンしたゲストハウスで、既存の建物を改築してシャワールームなども完備され、相部屋や個室で最大19人が宿泊できる施設です。

町の中心部にあることから、宿泊客には近くの飲食店や温泉、スーパーなどを利用してもらい、町の活性化につながるように考えており、希望者には酪農体験などもできるようになっています。

委員会開催　4月25日

6月4日

6月19日

（水石　幸衛　議員）

平成30年4月から6月までの活動報告

月日	行事	出席者
4月3日	議会広報特別委員会	全委員
5日	病院の近未来を検討する特別委員会	全委員
	交通安全祈願祭等	議長
6日	新入学児童に対する交通安全啓発	議長
	議会広報特別委員会	全委員
10日	中標津農業高等学校入学式	議長他
12日	高橋はるみ知事を囲む懇談会・知事施設視察	議長
20日	根室町村議会議長会定期総会（羅臼町）	正副議長
25日	第２回臨時議会	欠席１名
	中標津町議会議員会役員会・総会	欠席１名
	中標津地域森林・林業・林産業活性化議員連盟総会	欠席１名
	全員協議会	欠席１名
	総務文教常任委員会	全委員
	産業建設常任委員会	全委員
	病院の近未来を検討する特別委員会	全委員
	全道統一メーデー中標津地区集会	議長
5月		
8日～11日	市町村議会議員特別セミナー受講（千葉市）	一期目議員（宗形・江口・髙橋・栁・飯島・千葉・黒川）
8日	自民党北方調査会との懇談会	議長
17日	厚生常任委員会	全委員
18日	なかしべつ観光協会定時総会	議長
20日	中標津町・根釧東部森林管理署共催「植樹祭」	熊倉林活会長・議員
21日	中標津町商工会通常総代会	議長
25日	根室地方総合開発期成会根室本線花咲線対策特別委員会、根室地方総合開発期成会定期総会、地域高規格道路根室中標津道路整備促進期成会総会（根室市）	議長
27日	乳牛感謝祭	議長・産業建設常任委員長
28日	全国町村議会議長・副議長研修会（東京都）	正副議長
30日	病院の近未来を検討する特別委員会	全委員
	道立林業大学校誘致に係る講演会	議長他
31日	静岡県磐田市市議会「きずなの会」視察受入	議長
	ビザなし交流択捉島訪問結団式（根室市）	鈴木議員

月日	行事	出席者
6月		
1日～4日	北方四島交流訪問事業（択捉島）	鈴木議員
2日	中標津町農協総合共進会	議長
4日	産業建設常任委員会	全委員
5日	総務文教常任委員会	全委員
	中標津飲食業連合会「包丁供養祭」	議長
7日	６月定例会議件事前説明	正副議長・正副議運委員長
	中標津町外２町葬斎組合、根室北部消防事務組合、各議会臨時会	関係議員
8日	地域高規格道路釧路中標津道路整備促進期成会総会、中標津空港利用促進期成会総会	議長
9日	中標津ライオンズクラブＣＮ30周年記念式典・祝賀会	議長
10日	平成30年度根室管内消防団員技能競技訓練大会	議長
12日	北海道町村議会議長会定期総会（札幌市）	議長
	釧路根室地方森林・林業・林産業活性化を促進するための連絡会議役員会（釧路市）	熊倉林活会長・佐藤議員
13日	議会広報特別委員会	全委員
14日	議会運営委員会	全委員
16日	北方四島交流事業ファミリー受入歓迎式	副議長・総務文教常任委員長
18日	６月定例会本会議（１日目）	全議員
	全員協議会	全議員
19日	厚生常任委員会	全委員
	産業建設常任委員会	全委員
20日	総務文教常任委員会	全委員
21日	議会運営委員会	全委員
22日	６月定例会本会議（２日目）	全議員
	病院の近未来を検討する特別委員会	全委員
25日	茨城県結城市議会会派自由クラブ視察受入	議長
26日	厚生常任委員会	全委員
27日	議会広報特別委員会	全委員
28日	議会広報特別委員会	全委員
29日	根室地方森林・林業・林産業活性化推進議員連盟協議会役員会・総会	熊倉林活会長外関係議員

議会だよりに対するご意見をお寄せ下さい。

〒086-1197 北海道標津郡中標津町
丸山２丁目22番地
中標津町役場
TEL（0153）73-3111
FAX（0153）73-5333

〈議会事務局にご連絡を〉
・ホームページは
http://www.nakashibetsu.jp
・メールは
gikai@nakashibetsu.jp

発行／北海道中標津町議会
編集／議会広報特別委員会

編集後記

議員の任期４年のうち、２年が経とうとしています。

早いものでマラソンで言えば折り返し地点まで来てしまいました。

２年毎に委員会構成が変わりますので、現在のメンバーで編集するのは今号が最後となります。

「議会」が何をしているのか町民に伝えようと、読みやすい、分かりやすい議会だよりの発行に取り組んできたつもりですが、結果は前例踏襲の紙面と、さほど変わり映えのない内容ではなかったかと反省しています。

そんな中、表紙にキャッチコピーを入れたり、中身の一字一句にはしっかり全員で気を配ってきたとの思いもあります。

何ごともいきなり生まれ変わるのは中々難しいですが、昨日よりも今日、今日よりも明日と、日々目標を持ち続け、今年第10回を迎えた「なかしべつ330°開陽台マラソン」が地元に根付いてきたように、一歩一歩、足を前に進めていこうと思います。

（議会広報特別委員会委員長　瀬波秀人）